

# 秩父札所の戦没者慰霊碑

黒木 朋興\*

## The Chichibu Pilgrimage and the war memorial

KUROKI Tomooki\*

キーワード：秩父，札所，戦没者慰霊碑

### 1. はじめに

埼玉県西部の山岳地帯に位置する秩父は信仰の土地である。最近では、秩父神社の例祭である秩父夜祭が、2016年12月1日にユネスコ無形文化遺産に登録決定されたことは記憶に新しい。それに加えて、秩父には秩父札所と呼ばれる三十四ヶ所の観音霊場があり、現在でも毎年多くの巡礼者が彼の地を訪れている。

筆者は2014年、午年総開帳の年の5月5日に秩父を訪れて以来、この地が持つ不思議な魅力に魅せられて、2018年3月までに34ヶ所の札所を4回巡った。その道程の中で、特に戦没者の慰霊碑の存在が気にかかった。特に、1番の四萬部寺、17番定林寺、22番童子堂と護国観音のある27番の大淵寺には立派な碑がある。この論考は、現在までに分かったことを書き留めておくことを目的とする。

### 2. 秩父三十四ヶ所札所

秩父三十四ヶ所札所は、西国三十三ヶ所、坂東三十三ヶ所と合わせて日本百観音巡礼に数えられている。この中で最も古いと言われているのは西国三十三ヶ所で、伝承によればその起源は8世紀だと言われる。秩父三十四ヶ所の発祥は鎌倉時代後期くらいとされるが、このことを記述した最古の文書は、32番の法性寺が所蔵している1488年の『秩父

観音札所番付』であり、この時点で札所はまだ三十三ヶ所であった。なお、この文書は公開されていないが法性寺の境内にその写真のパネルが設置されている。

三十四ヶ所を全て徒歩で制覇するとなると、総距離は約100キロとなり5日から6日の日程が必要である。筆者は1回目こそ自転車と自動車を使ったが、2回目以降歩いて巡礼を行っている。

市街地を歩くコース、里山を歩くコース、尾根伝いに秩父盆地を見下ろしながら進むコースや、峠越えをするコースなど、短い日程ながら変化に富んだ巡礼道となっている。

秩父は、山岳地域の中の盆地に形成された街である。江戸の地から武蔵国を介してこの地に入るとその先は甲斐や上州へと街道が通じており、かつては交通の要衝として栄えたという。江戸から近く比較的に手頃にまわられる巡礼の地として江戸時代から賑わってきた。

現在でも秩父を歩いていると、巡礼者が観光バスで札所巡りをしているのをよく見かけることがある。巡礼と現在の観光の関係は既に指摘されているテーマであり<sup>1)</sup>、実際、秩父においても訪れる巡礼者が宿や飲食店等にお金を落としていくわけで、まさに今の秩父にとって重要な観光資源になっていると言える。

一つの盆地の中に札所を備えている秩父の観光地としての特徴に、現代の観光地によくあるマンネリに陥っていないことが挙げられる。観光地と言え

\*理工学部情報システムデザイン学系非常勤講師 Part-time Lecturer, Division of Information System Design, School of Science and Engineering

ば全国のどこに行っても同じような作りのお土産屋、そしてそこに並ぶやはり温泉饅頭のようなありきたりの菓子の類に象徴される一定のパターンが見出せることはよく知られていることと思う。秩父はある意味そのようなマンネリ化から免れていると言えるだろう。例えば、対照的なのが、秩父の入り口にあるライン下り（川下り）で有名な長瀨である。秩父鉄道の長瀨駅からライン下りの船着場がある岩畳の間が「長瀨岩畳通り商店街」と呼ばれる観光街となっているが、それに比べて秩父市内の観光地化は今ひとつ動きが鈍いように思う。もちろん、秩父においても西武秩父駅前の仲見世通りが 2017 年 4 月 24 日に「秩父駅前温泉祭の湯」とそれに併設するお土産屋やフードコートとしてリニューアルオープンしたことに表れているように、西武鉄道が観光事業を推進している。しかし、西武秩父駅はあくまでも西武池袋線の終着駅にすぎず、街の中心はむしろ秩父鉄道秩父駅と御花畑駅の間にある秩父神社の参道の番場通りであるし、地元の物産も秩父鉄道秩父駅に併設されている地場産センターや各所にある道の駅に多く置かれている。

このように、観光事業の焦点が今一つぼやけているのも、秩父が武甲山採掘によるセメント産業で潤ってきたからというのと、何より秩父三十四ヶ所札所の存在によりそれほど宣伝しなくても観光客が彼の地を訪れているからだと思われる。つまり、秩父三十四ヶ所札所は秩父という土地において今なお重要な役割を果たしているということだ。

### 3. 秩父事件、二・二六事件と戦没者慰霊碑

秩父は天皇家を頂く中央政府に対して負い目の感情を抱いている。それは秩父事件という形で天皇へ叛旗を翻し、更には昭和天皇を激怒させたクーデターである二・二六事件に深く関わっているからである。

秩父事件とは 1884 年に起こった農民による政府に対する武装蜂起事件である。フランスの市場で生糸価格が大暴落したのに連動して国内の生糸価格が大幅に下がり、養蚕を主要産業としていた秩父の農民の生活が大きな打撃を受けたのである。秩父の人民は負債の延納と雑税の減少を求めて武装蜂起

したものの、数日で鎮台兵に制圧されてしまい、田代栄助を始め指導者達は死刑となった。この時、彼らが蜂起時に口にしたと言われる「恐れながら、天朝様に敵対するから加勢しろ」という言葉が象徴しているように、天皇に背くという意識は明らかだった。

1936 年の二・二六事件は、一般的に故郷の貧困を憂う東北出身の青年将校が主導したクーデターとして知られている。だが、麻布に駐屯地をおく歩兵第 3 連隊には、正確な人数こそ把握できていないものの秩父出身の兵士が数多くいたために、秩父との関わりが指摘される<sup>2)</sup>。実際、この地名を冠した宮様である秩父宮がこの政変の黒幕ではないかという噂もあったのだ<sup>3)</sup>。末端の兵士に処罰は及ばなかったものの歩兵第 3 連隊はこの後、ノモンハンや宮古島などの激戦地域に派遣されることになった。

昭和天皇の弟君が秩父宮を名乗ったことには、秩父事件により中央政府に負い目の感情を抱いていた秩父の人々の自尊心を回復する効果があったことは想像に難くない<sup>4)</sup>。また、二・二六事件のせいで更に深まってしまった地元の不名誉を挽回するべく、秩父出身の兵士達が戦場で一層の奮闘を心に誓っていたとしてもさほど不自然なことではないだろう。

このような歴史的背景を抱える秩父に建てられた戦没者慰霊碑はやはり他の地域に対して特別な意味を持っているのではないだろうか？ というわけで、札所で目にした戦没者の慰霊碑について書き記しておきたい。

### 4. 一番四萬部寺

四萬部寺を初めて訪れたのは 2014 年 5 月 6 日であった。山門から入って正面に観音堂があり、その右手に立派な施食殿があるが、毎年 8 月 24 日にここで行われる施餓鬼は関東三大施餓鬼として有名である。

観音堂を挟んでこのお堂の向かいに鐘があるのだが、1951 年（昭和 26 年）に建造建立されたというこの鐘は「平和の鐘」と呼ばれており、傍の看板には「秩父郡出身一千億人の英霊の氏名を鐘に刻み供養して建立したものです。／もろもろのみ仏らに

一心にこもる梵鐘の音を聞こしめし永遠に安らげく眠りたまえ。」と記してある。地域の人々による戦没者の慰霊の気持ちの強さが分かるだろう。



写真1 2018年6月24日撮影

更に、観音堂の裏はちょっとした丘になっており、その斜面には水子供養のためのお地藏様が並んでいる。この丘の上にはやはり「戦没者芳名顕彰碑」が建っている。ここには戦没者の方の御名前の横に以下の文言が彫ってあり、地域の人々の思いを察することができる。

大戦終結から五十年半世紀をここに迎え国家の為恒久平和を願い大義に殉じた戦士の記念碑建立の意気盛り上がる あの悲壮な戦争そして国土も戦場化し全国民が被った悲惨な体験者も少なくなった 今は想像もできなかった経済大国となり平和社会が築かれ全てが豊かな国に変わり過去の戦争は忘れ去れらようとしている時

戦没者遺族は若々しく雄々しくも国の為散華した勇士の御霊に対してそのご功績を讃え永く後世に伝えたい念願から 日清日露戦没者以降大東亜戦争に至る殉国戦士の記念碑をここに建設する

平成七年八月十五日

高篠戦歿者遺族会長 田端達夫 選文  
札所一番萬部寺住職 丹羽信孝 書



写真2 2018年6月24日撮影

だが、このお寺で最も興味深いのは、比較的新しいこの碑の横に建っているより古い「芳魂供養塔」である。写真3を見てもらおう。元々何らかの碑が建っていた場所の上にこの塔が新たに建てられていることがわかる。しかも、元の碑は完全に埋まっておらず、窓から元の碑を垣間見ることができている。そこには「忠」の文字と次の文字の一部がのぞいている。2016年5月4日に訪れたおり、納経所でお寺の方にこの不思議な塔について尋ねてみたところ、はぐらかされてしまった。フィールド調査の難しいところではあるが、地域の人々は他所者に簡単に詳しい話を聞かせてくれなどしはしない。



写真3 2014年5月6日撮影

ところがである。その日昼食をとった坂本庵という蕎麦屋（現在は閉店）の本棚にあった秩父市の戦没者名簿にはこの碑のかつての写真が掲載されており、そこには「忠魂碑」の文字があったのだ<sup>5)</sup>。何故、この忠魂碑の上に新たな芳魂供養塔が建てられたのであろうか？ そして何故、元の忠魂碑の一部が窓から見える形で残されているのだろうか？ 戦後、進駐軍を恐れて隠そうとしたのであろうか？ 今の段階では詳細は不明だが、この忠魂碑のあり方が秩父の人々の複雑な心情を象徴しているものと思われる。

## 5. 十七番定林寺

この札所はアニメ『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』の舞台となったことで有名な寺であり、放映以来多くのファンが訪れている。

盆地の中央あたりに位置し住宅地に囲まれているが、周りには鬱蒼とした林があり独特の雰囲気醸し出している。かつては間引きした嬰兒の遺体を裏の沼（現在は見当たらない）に捨てたという話も地元には残っている<sup>6)</sup>。

観音堂の前に「大東亜戦争／支那事変 従軍記念碑」が建っており、その裏面には写真4にあるように、御名前が刻まれている。納経所で話をうかがうと特攻で亡くなった方が一名いらっしやるとのことであった。



写真4 2018年9月15日撮影

## 6. 二十二番童子堂

現在、童子堂は畑や住宅地に囲まれた地区にある。しかし、以前は現在の位置を見下ろす峠の中腹にあり、現在の場所に移築されたのは1910年のことになる。童子堂とは観音様が納められているお堂のことで、これを管理しているのが隣に建っている永福寺である。

この永福寺の境内にも写真5にあるように「従軍記念碑」がある。明らかに新しいこの碑の裏面には写真6のように御名前と以下のような文言が掘られている。

日露戦争から大東亜戦争迄永福寺所属秩父観音霊場廿二番童子堂の信徒は国難に当り第一線に勇躍奮戦し十数戸の信徒中一戸に於て三名の勇士を送り又他の一戸に於ては一名で三度も応招し砲煙弾雨の中をくぐるも一名の戦死戦病死者もなく全員帰還を得たるは之当観世音菩薩の加護によるものにして功德の広大なるに感激しここに健碑した次第なり合掌



写真5 2018年9月15日撮影 写真6 2018年9月15日撮影

戦死者の慰霊ではなく、全員が生還した記念ということであり、かなり珍しいケースであるように思われる。

## 7. 二十七番大淵寺

大淵寺は山の裾野にあり、16.5メートルの護国観音が上から境内を見下ろしている。

護国観音があるところから、やはり日本軍と所縁の深いことが察せられる。そしてこのコンクリートの像から境内に降りていく山道の途中に戦没者慰霊碑がある。写真9のように「歩兵七十五連隊 通信隊戦歿者慰霊之碑」とあり「小池」の名前がある。その横には写真8のように「歩兵七五連隊比島戦没者慰霊碑」とあるので、フィリピンで亡くなられた方々の慰霊碑であることがわかる。お寺の方のお話によれば、地元の名士の方が資金を出して建てたとのことである。



写真7 2015年8月3日撮影



写真8 2014年9月7日撮影



写真9 2014年9月7日撮影

## 8. 終わりに

秩父三十四ヶ所札所のうちの四つの寺に兵士の慰霊碑・記念碑が建てられていることが確認できた。その中でも特に興味深いのは、1番四萬部寺である。まず、慰霊のための鐘に加えて戦没者の方の御名前と鎮魂の文章が掘られている慰霊碑がある。更に、根元の部分が埋められた忠魂碑の存在が秩父の人々の微妙な感情を象徴していると言えるだろう。地元の方への聞き取り調査が簡単ではない以上、この忠魂碑の意味がどこまで明らかになるかは定かではない。しかし秩父を知る上で、これらの戦没者慰霊碑は極めて重要であるように思われる。

## 註

- 1) Cf. 松鷹彰弘, 「巡礼と観光に関する一考察」, 『沖縄短大論叢』, 1998, pp. 1-29.
- 2) 県史編さん室, 『新編 埼玉県史 別冊 二・二六事件と郷土兵』, 埼玉県史刊行協力会, 1981, pp. 10-1.
- 3) Cf. 茂木謙之介, 『表象としての皇族 : メディアにみる地域社会の皇室像』, 吉川弘文館, 2017, p. 12 & p. 265. なお、茂木氏には個人的に様々なことをご教示頂いた。
- 4) 松本清張, 藤井康栄 編, 『二・二六事件=研究資料 (1)』, 文藝春秋, 1976 : 「叛軍将校等ノ計画中畏クモ秩父宮殿下ヲ擁立シ 陛下ノ御退位ヲ迄イ奉ラントスル恐ルベキ不逞 劃策ガアツタトノコトデアル」。 Cf. 茂木謙之介, 「戦前期

地域社会における皇族表象—埼玉県秩父地方における秩父宮をめぐる諸言説の検討から—, 『頸城野郷土資料室学術研究部 研究紀要』1(5), p. 24 : 「近代天皇(制)国家への反逆としての秩父事件という同時代の地域にとっての一種の〈傷〉を、「我郡の殊寵」即ち秩父宮号の宣下と秩父宮の「御成」をはじめとした皇族との直接的な関係形成によって解消しようとするものも存在した。」

5) 坂本庵で当該ページの写真をとったのだが、残念ながら紛失してしまった。その後、秩父市遺族会, 『秩父市戦没者名簿』, 2000 だと思い、参照したところ、忠魂碑の写真がない。別の版があると思われる。引き続き調査をしたい。

6) 清水武甲, 『秩父幻想行』, 1968, 木耳社, p. 83.

